



とみなが ていじ
富永 悌二 教授

～ 神経外科学分野 ～

講義題目

脳が脳を診て、40年。

【略 歴】

1982年 3月	東北大学医学部卒業	2013年10月	東北大学病院臨床研究推進センター バイオデザイン部門長（～2019年3月）
1982年 6月	東北大学医学部附属病院研修医	2014年 4月	東北大学病院臨床研究推進センター 副センター長（～2019年3月）
1987年 2月	米国フィデリティ大学都市科学センター生体膜研究所	2015年 4月	東北大学病院副院長（併任 ～2019年3月）
1989年 9月	東北大学医学部附属病院助手	2019年 4月	東北大学副学長（併任 ～2023年3月） 東北大学病院長（併任 ～2023年3月）
1993年 5月	米国バロー神経学研究所	2023年 3月	退職
1993年10月	東北大学医学部附属病院助手（復職）		
1997年 6月	東北大学医学部講師		
1997年 9月	財団法人広南会広南病院		
2003年 5月	東北大学大学院医学系研究科教授		

【研究業績等の紹介】

富永悌二教授は、1982年に東北大学医学部を卒業後、鈴木二郎教授が主催する脳神経外科教室に入局し、1987年から2年間、米国フィデリティ大学都市科学センター生体膜研究所に留学して脳虚血に関する研究を行い、また1993年に半年間、米国バロー神経学研究所にて臨床経験を積まれました。2003年に東北大学医学系研究科神経外科学分野教授に就任後、2015年に東北大学病院副院長に就任し、2019年から同病院長、東北大学副学長（病院経営担当）に就任されました。

富永教授は、在任期間中70名を超える博士や62名の脳神経外科専門医を育成され、脳神経外科主任教授・関連科教授も同門より多く輩出されました。診療においては、本学脳神経外科創設以来の「患者中心主義」を掲げ、関連病院と連携して診療疾患を分担し、すべての脳神経外科疾患に対応する包括的な診療体制を構築されました。サブスペシャリティ分野においても、スペシャリストを育成して、患者をそれぞれの施設に集約することにより、診療・教育の質の担保に努められました。研究においては、もやもや病の研究で初の疾患感受性遺伝子 RNF213 変異を報告し、もやもや病患者のバイパス手術後の特異的な脳血流の過灌流現象を見出して体系的な臨床研究を行いました。

た。また先駆的に数値流体力学を導入して、脳動脈瘤の血流動態をシミュレーションして病態研究に寄与されました。難治性の脳幹部神経膠腫に対して、新たな脳内薬物送達法を応用して抗腫瘍剤の局所投与による治療法を開発し、医師主導治験までの橋渡し研究を行いました。脳梗塞や脊髄外傷後の神経機能再建を目指して、Muse 細胞を用いた幹細胞治療の基礎研究を行い臨床試験に至っています。一方、ウォータージェットメスの開発と臨床応用、ゲル電極の医療応用に関する研究などの医療機器開発も行われました。

また、冨永教授は、2019年より東北大学病院長・副学長（病院経営担当）として、スマートホスピタルを目指して、AI人材育成、産学連携推進、教職員の well-being 宣言を行い様々な業務改善や財務基盤の安定化に努められました。Covid-19 パンデミックに対しても自治体と密に連携して積極的な対応を行いました。

冨永教授は、一般社団法人日本脳神経外科学会の理事長、同日本脳卒中の外科学会理事長など、関連学会で多くの役職を歴任し、「情報通信月間」総務大臣表彰（2013年）、文部科学大臣表彰（科学技術賞 研究部門）（2014年）を受けられ、2019年に一般社団法人日本脳神経外科学会齋藤眞賞（学術賞）を受賞されました。